

専門試験—上級—行政事務A・学校事務・警察事務

〔 No.1 〕 次の記述ア～ウはそれぞれ、学級の間関係や学級風土を測定する方法である  
ゲスフーテスト、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）、ソシオメトリック  
のいずれかについての説明である。記述とそれに該当する方法の名称の組合せとして  
妥当なのはどれか。

- ア. 例えは、「班学習で誰と同じグループになりたいですか」といったような簡単なア  
ンケートで集団成員間の好き・嫌いを調べ、相互に選択又は排斥し合った子ども同  
士、一方的に選択又は排斥された子どもを図表で整理することで、学級の間関係を  
捉える方法である。
- イ. 学級満足度尺度と学校生活意欲尺度から構成される。このうち学級満足度尺度は、  
児童生徒を、学級生活について被侵害と承認の両面から学級生活満足群、学級生活  
不満足群、侵害行為認知群、非承認群の四つに分け、分布を調べることで学級集団  
の性格を把握するものである。
- ウ. 例えは、「クラスの代表として誰からも信頼されているのは誰ですか」あるいは  
「身勝手なことばかりするのは誰ですか」といったように、ポジティブあるいはネ  
ガティブな行動を行う級友を挙げさせる質問を行い、学級における子どもの社会的  
地位を子どもの実際の行動を対象にして捉える方法である。

ア	イ	ウ
1. ゲスフーテスト	Q-U	ソシオメトリック
2. ゲスフーテスト	ソシオメトリック	Q-U
3. ソシオメトリック	ゲスフーテスト	Q-U
4. ソシオメトリック	Q-U	ゲスフーテスト
5. Q-U	ソシオメトリック	ゲスフーテスト

[ No.2 ] 教育を受ける権利に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。ただし、争いがある場合は判例による。

- ①. 子どもの教育内容の決定については親、私立学校、教師、国が関わり、教師の教授の自由が一定範囲において肯定されると同時に、国にも必要かつ相当な範囲において教育内容決定権が認められる。
2. 学習指導要領は、教育のあるべき姿を示すものとして綱領的・助言的性格をもつものと位置付けられる。したがって、教師はこれに従わなくとも、懲戒処分等の法的制裁を科されることはない。
3. 教科書検定は表現物の行政権による事前チェックであり検閲に当たるとされるが、教育を受ける権利を全国的に一定の水準で実現する必要があるため、公共の福祉の見地により許容される。
4. 憲法は義務教育を定めているので、子どもは教育を受ける義務を負う。これは、子どもの自律権を一定程度制約するが、人としての人格的成長のためにやむを得ない制約とされる。
5. 義務教育の無償が憲法上定められている。これは、教育の対価である授業料、及び教育において必須の位置付けを受ける教科書について無償とすべきことの要請である。

[ No.3 ] 消費関数に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. ケインズ型の消費関数によると、限界消費性向は可処分所得にかかわらず一定であり、平均消費性向は可処分所得が増加するにつれて上昇する。
2. ケインズ型の消費関数の性質は、短期の時系列データを用いて推計された消費関数より、長期の時系列データを用いて推計された消費関数に当てはまりやすい。
3. ライフサイクル仮説によると、家計は可処分所得が多い時期にその一部を貯蓄し、可処分所得が少ない時期の消費に充てることによって生涯を通じて消費を平準化する。
4. 将来の所得の増加が見込まれている家計が借入を制約されることは、ケインズ型の消費関数の説明力が高まる要因ではなく、ライフサイクル仮説や恒常所得仮説の説明力が高まる要因である。
5. 家計が、ケインズ型の消費関数に従って行動する場合と、ライフサイクル仮説に従って行動する場合とでは、一時的な所得税減税によって現在の消費が増加する効果は、後者の方が大きい。